

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/09/01 ～2018/09/31)

1. 勉学の状況

初回ですので簡単に自己紹介をしたいと思います。私は人文公共学府の2年生です。今回の留学の主な目的は専門である言語学の知識を深めることと、卒業後にアメリカの大学院に進学するための準備をすることです。学部生で卒業後は就職するという一般的なケースとは異なりますが、留学の様子を様々な面から伝えていければと思います。

勉強のスケジュールは以下の通りで、専門の授業しか取っていません。特に英語に自信があるという事ではありませんが、非ネイティブ向けの英語の授業は取っていません。留学生の友達が出来ないというデメリットはありますが、それを除けば今のところ特に困っていることはありません。

	月	火	水	木	金	土
12:30~13:45	Syntax		Syntax		勉強会	勉強会
14:00~15:15	Semantics	Phonetics	Semantics	Phonetics	(Phonetics)	(Semantics)
15:30~16:45						
17:00~18:15	Proseminar					
18:30~19:45	Proseminar					

言語学は音(phonetics)、意味(semantics)、文法(syntax)が主な分野ですが一応その全てを勉強していることとなります。このように1つの専門をまんべんなくしっかり勉強できるのはアメリカの大学の強みの1つではないかと思います。Proseminarという授業は1つ言語を選んで、その音や文法の仕組みを調べるといえば総合的な授業です。また、Phoneticsの授業ではグループで調査を行い学期末にレポートを提出しなければならないので、そのための勉強会を金曜日に行っています。土曜日のSemanticsの勉強会は単に理解を深めるための勉強会です。

ここまで1か月授業を受けた率直な感想は“大変だけれども楽しい”です。勉強に関してはほとんど期待していた通りで、アメリカの大学での勉強は以下に書くような日本とは違った楽しさがあります。

授業は噂に聞いていた通り宿題や予習復習で大変ですが、クラスが比較的少人数なこともあり、密度が高く充実した勉強ができています。SyntaxとPhoneticsは20人程、Proseminarは10人程、Semanticsは6人で勉強しています。これは言語学が人気がないというのかもしれませんが、他の授業でも20人程が多いそうです。ProseminarとSemanticsが少ないのは大学院生向けの授業だからです。どのクラスも日本でいうゼミのような和気あいあいとした雰囲気とても楽しい

です。特に、学生がたくさん質問をして先生を困らせることが多いのが見ていて面白く感じます。

取っている授業の中では Semantics が一番大変です。正式には Advanced Semantics という名前で上級の授業ですので、まず単純に内容がとても難しいです。それを英語で勉強しなければならないのでなおさら大変です。しかし幸いなことに、他の学生にとっても難しいようで土曜日に皆で集まって分からないところを質問し合ったりしています。日本では大学院生の数が少ないということもあり 1 つの事柄を皆で勉強するということがなかったので、このような勉強会は新鮮でとても楽しいです。Semantics の授業に限らず、言語学専攻の大学院生がたくさんいるというのが私にはとても嬉しいことで、最も留学のメリットを感じているところです。

とにかくここまでは、特に勉強の面ではとても充実しています。ここに書いたのはほんの一部で、まだまだ思ったことや書けることがあるほどです。次回の報告書では、今回書ききれなかった事や授業の中身の様子をより生き活きとお伝えしたいと思います。

2. 生活の状況

この報告書は 9 月分ですが、私は生活や語学力に不安があったため 8/12 から 2 週間ほどシカゴで語学学校に通いました。そのおかげかミルウォーキーでの生活はこれといった不安なく始められました。あまりポピュラーではないそうですが、不安であれば事前に語学学校に通うというのも良いかもしれません。

学校では Sandburg という寮に住んでいて、寮での生活にも慣れて来ました。キッチンがないので料理ができないのは少し辛いですが、寮内のコンビニやレストランでサンドイッチやラーメンを買ってやり過ごしています。私はそれほど食にこだわりがないので大丈夫ですが、そうでない人はキッチンが付いている寮を選んだほうが良いと思います。寮での生活では唯一騒音だけが気になります。私の部屋は 2 階で通りに面しているので、車のクラクションや警報音が特に夜中ですとうるさく感じます。私が騒音に弱いということもありますが、朝も芝刈り機の音で目が覚めることが多くあります。Sandburg には私が住んでいる West tower の他に North tower と East tower があるのですが、West 以外は通りに面していないので静かかもしれません。その他には、日本ではずっと猫を飼っていて留学して初めて猫がいない生活をしているのでそれが少し寂しいです。その代わりという訳ではないですが、寮に付いている公園などにいるリスをたまに眺めています。

ミルウォーキーの町自体はとても気に入っています。観光は全くしていませんが、すぐ近くに自然が多くあるのが特に好きなおところです。15 分ほど歩くとミルウォーキー川に出るのですが、視界に人工物が一切入らないくらいの自然が楽しめるのでたまに散歩で行っています。特別きれいだったり雄大なわけではありませんが、川が好きで私にとっては落ち着く場所の 1 つです。

それ以外のアクティビティでは、学内の映画館に映画を見に行きました。One sings, the other doesn't という 70 年代のフランス映画でフェミニズムがテーマの社会派な内容だったのですが、思いのほかとても面白かったです。日本では公開されていないそうで、こういった出会いも留学

のメリットの1つかなと思います。また、テレビも好きでたまに見ています。House hunters という一般人が家を探す番組を日本にいた頃から Youtube で見ていたのですが、リアルタイムで見ているとアメリカに来たことを実感します。バラエティ番組もたまに見ますが、まだアメリカの笑いを理解できるほど達者ではないのであまり面白く感じません。私はお笑いが好きなので、この留学でアメリカのコメディでも笑えるようになりたいです。ちなみに、日本語を勉強しているアメリカ人の学生で「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!」を見ている学生が何人かいました。罰ゲームというシステムが面白いらしく、笑ってはいけないシリーズがアメリカでは Silent library としてリメイクされたりもしているそうです。やはり体を使った笑いは万国共通だと思いました。

最後に気候についてですが、これを書いている 10/2 の時点でかなり寒くなっています。ここ 2 週間ほどで急激に冬のおいがしてきたという感じがします。これから数か月は寒くなり続けると思うと気が滅入ります。周りでも風邪をひいている人が多くなってきたので私も体調には気を付けなければと思います。

少しまとまりがない報告書になってしまいましたが、来月は友達とシカゴ・ミルウォーキーを観光する予定があるのでその様子をお伝えできればと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/10/01 ～2018/10/31)

1. 勉学の状況

学部で自分の専攻について既に基礎的なことは学んでいる私にとって、正直 9 月の授業はさほど難しくなく、課題の量はともかく授業内容はあまり問題ではありませんでした。しかし、10 月に入ると授業内容も少し込み入ってきて大変に感じてきました。とはいえ、新しい環境で自分の好きな勉強を出来ているため様々な発見や気づきがあり、相変わらず楽しく日々を過ごせています。前回の報告書では取っている授業の概要や週のスケジュールなど、外身の話が主でしたので今回は授業の中身を中心に話したいと思います。

前日も書いた通り、アメリカの授業では学生が先生に質問をしたり、間違いを指摘したり、時には食って掛かることが非常に多いです。私が取っている言語学の授業では特にそのようなことが多いのではないかと思います。主に英語の音や文法の理論を学んでいますので、ネイティブの学生が“私はそんな発音はしない”、“私はその規則に反する文を普段使う”などの反論を言うのです。この間の授業では unhappiness は un+happiness か unhappy+ness かといった話があり、先生が様々な例や理屈を用いて unhappy+ness だと言ったのですが、一人の学生が“私は絶対に un+happiness だと思う”と食って掛かり 10 分ほど言い合いになるということがありました。もちろん学生が言い負かされたのですが、そのあとかなり不機嫌になっておりアメリカ人の良い所と悪い所をいっぺんに見た気がしました。これは極端な例ですが、似たようなことは日常的にあります。

また、派遣留学生といえど他の学生と対等に扱われるので嬉しい時もあれば困る時もあります。ある授業では、大学院生は論文を 1 つ選んでそれを皆に解説するという課題があったのですが、私も当然のようにそれをやらされました。なんとかやり過ぎたのですが、20 人ほどのネイティブの前で英語でプレゼンテーションをするというのは本当に緊張しました。例によって質問も飛んできますので、前日は緊張と準備で寝れなかったほどでした。プレゼンテーション以外でも、言語学ですので授業中に“日本語ではどうなの？”と聞かれることが時々あります。そういった場合は、日本語の例を考えて時には説明もしなくてははいけないのでどっと疲れます。なにより、それに備えて授業中に気を抜けません。しかし、このように人前で話す機会に恵まれていることは良い経験だとも思います。英語力や言語学の知識以外にも様々な面で鍛えられている気がします。

最後に、10 月終わりから 11 月初めは中間試験(midterm exam)の時期ですので、それについて少し書いて終わりたいと思います。2 つあるうちの 1 つの試験を既に終えたのですが、普段から宿題を出されていることもありそれほど大変ではありませんでした。試験のシステム自体は日本と同じで終わった人から帰って良いというもので、私のように時間目いっぱい 75 分使う人もいれば、諦めたのか 20 分ほどで帰る人もいました。違う点といえば、自分の点数を 2 日後には

オンラインで知ることができるという点に少し感動すると同時に先生は大変だなと思いました。もう1つの試験は紙を1枚持ち込んでよく必要以上に心配することはなさそうですが、しっかり備えて臨みたいと思います。

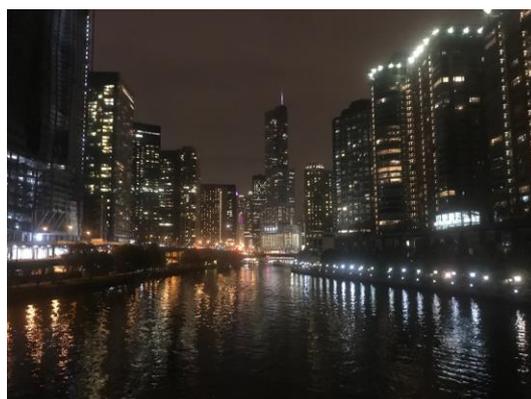
来月は履修している4つの授業全てで期末レポートを書かなくてはならず、それに追われることになりそうですが、次回の報告書でそれについてお伝えできればと思います。

2. 生活の状況

10月に入りミルウォーキーは一段と寒くなってきて最高気温が10度、最低気温0度といった日々が続いています。この調子で寒くなると思うと気が滅入りますが、幸い風邪などは引いていません。少し話は逸れますが、この間アメリカ人の友人から“風邪は実は耳から引くんだよ”と教えられました。アメリカにはそういう迷信があるんだなと思い笑い飛ばしそうになりましたが、以前に聞いたある話を思い出しました。インド在住の方から聞いた、インド人は耳から風邪を引くと信じていて半袖半ズボンでも耳当てだけはするという話です。耳の話はあながち迷信でもないのかも知れませんが、迷信繋がりでもう1つ言うと、このあいだ別のアメリカ人に“日本では扇風機に当たりながら寝ると死ぬって信じられてるんだろ”と大笑いされ、私は少し信じていたためにムツとしたことがありました。つくづく何が正しくて何が間違っているかは分からないなと思われています。また、それを気づかせてくれる異文化交流の大切さを実感しています。

さて、前回は騒音が気になるということをかかなり書いたのですが、不思議とそれも気にならなくなってきました。到着したばかりで私がナーバスになっていただけなのか、慣れたのか、はたまた外が静かになったのかは分かりませんが、先月より穏やかな生活ができています。

そして、前回の報告書で予告した通り友人とシカゴとウィスコンシンを観光しました。ウィスコンシンはドア群(door county)という、ミルウォーキーから車で北に2,3時間ほど行った避暑地に行きました。ミルウォーキーとは違った都会と田舎の2カ所に行きとても良いリフレッシュになりました。添付した写真の初めの2枚はシカゴの昼と夜で、真ん中に映っているのが ترامبタワーです。よく見ると TRUMP と書いてあるのが見えます。このタワーはかなり目立つ所にあり、不動産王 ترامب の存在感の大きさを感じました。次の2枚はドア群の ケープ・ポイント 群立公園にある有名な崖と、紅葉です。写真ですとあまり伝わらないかも知れませんが、崖はかなり高さがあり怖いです。また、全体的に紅葉がとても綺麗でまるで京都の嵐山にいるかのような気分になりました。この小旅行の前は気合が入りすぎていたのか、少し落ち込んだり塞ぎがちになることもあったのですが、思いっきり遊んだことでなんだか気が楽になり色々なことに前向きになった気がします。私は生まれてから20年ほど基本的に地元から離れることなく生活をしてきて、今回の留学で初めて全く新しい土地で新しい人間関係を築くという体験をしているのですが、それにもより積極的に取り組んでいこうと思うようになりました。アメリカ人のフレンドリーさを自分なりに見習っていきたいと思います。



少しトランプ大統領の話が出ましたが、今アメリカは知事と国会議員を選ぶ中間選挙の大詰めです。ウィスコンシンの知事選は現職の共和党所属の候補者 vs 民主党所属の候補者という構図のようで、私からすると州知事選でこんなに盛り上がるのかと楽しく見えています。毎日選挙の宣伝に触れているおかげで選挙権がないにも関わらず結果がとても楽しみです。また、とにかく宣伝合戦で、Youtube やテレビ、新聞など至る所で候補者の宣伝を見ます。テレビでは“この議員は離婚した妻と子供に養育費を払っていないから投票してはいけない”等のネガティブキャンペーンも見かけました。選挙ではありませんが、サブウェイのCM でマクドナルドの دونالدが休日にはサブウェイのサンドを食べていたり、広告・宣伝も全体的にユニークなものが多いように思います。

最後に、今月はミルウォーキーに Ed Sheeran がコンサートで来ていました。日本ではなかなかお目にかかることが出来ない人気者ですので見に行きたかったのですが、時間とお金の都合で行けませんでした。11月には私が大ファンの The Brian Setzer Orchestra というグループがミルウォーキーに来るようで、これは是非見に行こうと思っています。日本にいると遠い存在の人たちもアメリカにいると身近に感じることができ、特にミルウォーキーのような都会では直接見に行けるチャンスも多くあるので、無駄にしないようにしたいと思います。次回はそのコンサートの様子も少しお伝えできればと思います。また、それまで体調を崩さないように耳も含めてしっかり予防をして気を付けたいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/11/1 ～2018/11/30)

1. 勉学の状況

先月のレポートで予告したように、11月は授業内のレポートやプレゼンに追われています。今回の報告書ではレポート、プレゼンのために取り組んでいるプロジェクトについて書きたいと思います。

まず、Phonetics という言語の音を扱う授業のプロジェクトを紹介したいと思います。この授業では、通常の内容と並行して、グループを作り一つのプロジェクトを進めていきます。研究をしっかりと遂行するために、学期の初めからテーマ決め、参考文献のまとめ、実験のデザイン、分析のやり方などかなり細かい計画書を作らされてきました。

私のグループは私ともう一人アメリカ人の2人だけで、研究課題は“ミルウォーキーの英語の音の特徴について”です。ミルウォーキーを含む五大湖周辺では Inland North/Great Lakes 方言というものが話されており、例えば bag はバッグではなくベイグ、flag はフレイグ、wagon はウェイゴンのように発音されるのですが、それについての実験や検証を行っています。11月はそのプロジェクトの大詰めで、今は毎日のようにパートナーと相談をしています。日本では授業でこのような本格的な研究をやることはなかったので、忙しいながらも楽しんで取り組んでいます。

ここまでの印象として、アメリカの授業は“その授業を受けたらある程度専門的な文献を読む、書ける”ように授業がデザインされているように感じます。いわば、アカデミックに実用的です。Phonetics の授業で読む論文もみんなの研究に使えるような基本的な文献を扱うことが多かったですし、音声の分析のためのソフトの使い方もかなりの時間を割いて勉強しました。日本では、少なくとも私の場合は、“何でもいいから何か考えてみなさい”という授業を受けてきたので、違いに戸惑うこともありますが、まだ違いを楽しんでいます。

次は、Proseminar in linguistics という言語学の一般的な知識について学ぶ授業のプロジェクトについて紹介したいと思います。この授業では、習った知識を使って一つの非ヨーロッパ系の言語の音、単語、文法のシステムを調べ上げていくという課題に学期を通して取り組んでいます。他の学生はトルコ語、ヒンディー語、中南米の先住民の言語に取り組んでおり、私は台湾の先住民のパイワン語という言語を調べています。

この間まとめのプレゼンがあったのですが、特にアメリカ人にとっては全く馴染みのない言語ということもあり、質問やディスカッションの時間が思いのほか盛り上がったのが嬉しく印象的でした。また、プレゼンが終わった後に一人の学生が“ちょっと難しかったけど面白かった”とわざわざ声をかけてくれたのも印象的でした。これもアメリカならではのなと思いました。

他にも、2つレポートがありますので引き続き頑張りたいと思います。来月は今学期の総まとめとして何かを書ければ良いと思っています。

2. 生活の状況

ミルウォーキーはいつそう寒くなってきました。気温がほぼ毎日 0 度を下回るようになり、ヒートテックが欠かせません。雪も降るようになり、日本よりもずっと早く冬の訪れを感じています。この前、スケートをしに行ったのですが、小さい子供からお爺さんまでとても上手に滑っていたのが驚きでした。ウィンタースポーツが盛んなところに地域色が現れていると感じました。

11 月はアメリカの重要なお休みとしてサンクスギビングがあります。一般的にサンクスギビングの日はターキーを食べます。七面鳥です。クランベリーソースと七面鳥の組み合わせは最高で、日本にもあって然るべき文化だと思ったほどです。サンクスギビングは五日ほど休みがあるのですがみんな地元へ帰るので街はゴーストタウンと化します。そのため私たちインターナショナルの学生は居場所を見つけなければなりません。私は友達の家を招待してもらいました。アメリカの家族、親戚が一堂に会している様子は映画のようで、まるでバックトゥザフューチャーの主人公のマーティの家に遊びに行ったような気分でした。たまたま私の手前に座っていたジョンという 70 歳くらいのおじいさんに「君はどこでフォークとナイフの使い方を習ったの?」と聞かれ、古き良きアメリカ人に会えたことにとっても感動しました。ジョンさんはその他にも、むかし日本に行った時に修学旅行中の中学生に話しかけられなぜか戦争のことについて謝られたという話を笑ってしてくれたり、本当に貴重で楽しい出会いでした。

サンクスギビングの次の日は日本でも少し浸透し始めたブラックフライデーがあります。ブラックフライデーとは一気に店がセールを始める日で、ウォルマートやターゲットは大幅に割引をするので早朝からたくさんの人が入口に並びます。その様子はまるで日本の正月の福袋のようです。一番安くて 80% くらいのディスカウントがありますが私は 60% オフでコンバースの靴を買うことが出来ました。また、次の日は予定のなかった日本人の学生と集まって日本のカレーを作って食べました。久しぶりの日本食はとてもおいしかったです。アメリカでも日本食が食べられるとは思わなかったので感動しました。

また、11 月は文頭で書いたようにスケートに行きました。スケートは初めてでしたが、フィギュアスケートを習っていたという友達に滑り方を教えてもらい、最終的に両足でスピニングができるようになりました。日本に帰国したら是非皆に披露したいと思います。スケートは寒いですが意外と体を使うので運動不足の私にはちょうどいいエクササイズになりました。スケート場へは車で行かなければなりません。これからも友達に連れて行ってもらって運動したいと思います。

スケートの他にはアメリカ人の友達にチェスのやり方を教えてもらいました。あと一歩のところまで負けてしまいましたが、チェスは奥深くぜひ極めてみたいものだと思います。日本ではあまり普及していませんが、帰ったら誰かと対戦する機会があればと思います。それまでにスキルを磨き上げておきます。ちなみにチェスの代わりに大学ではトランプの大富豪を流行らせました。今では週に 1 回大富豪大会が図書館で開かれ交流を深めるのに一役買っています。まさに国際交流です。

最後に、先月に予告した通り The Brian Setzer Orchestra のライブに行ってきました。日本でも 3 回ほど見ているのですが、アメリカということもあり Brian Setzer が自然体でとてもカッコ

よく見えました。また、ロカビリー系の楽しい音楽を演奏し始めると踊りだす観客がいたのがとても面白かったです。添付した写真の通り、会場も歴史ある建物でとても雰囲気のある良いライブでした。ちなみに今は、噂で Perfume がシカゴに来るというのを聞いて見に行こうか迷っています。行くことになればまたここで報告したいと思います。





海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/12/1 ～2019/12/31)

1. 勉学の状況

12月にはクリスマスの前まで授業があり、私も他の学生と同じく期末試験やレポートに追われていました。今回のレポートでは今学期の振り返りと共に、その様子を書きたいと思います。概して秋学期は勉強がメインで自分の研究はあまりできなかったのですが、期末レポートを通して今学期に習ったことと自分の研究を結び付けることができました。9月分の報告書にも書いた通り、私の今学期のスケジュールは以下の通りです。

	月	火	水	木	金	土
12:30~13:45	Syntax		Syntax		勉強会 (Phonetics)	勉強会 (Semantics)
14:00~15:15	Semantics	Phonetics	Semantics	Phonetics		
15:30~16:45						
17:00~18:15	Proseminar					
18:30~19:45	Proseminar					

・ LINGUIS 464 Introduction to Syntax

これは人間の言語に共通する規則(文法)の理論についての授業です。私の専門という事もあり、授業の内容にも十分ついていくことができ、ひたすら楽しく授業を受けることができました。学期を通して課題が5つ、試験が2つ、レポートが1つありました。授業が厳しいため学生で協力して乗り切ろうという意識が強いのか、課題はいつも授業の前に数人で集まり答えを確認し合っていました。日本では学生同士で協力して一つの問題を解くという機会があまりなかったため、これは新鮮でとても嬉しく感じました。また、期末レポートでは授業で習ったことを使って小論文を書かなければならなかったのですが、その際先生にアポイントメントを取って相談をしに行きました。先生と研究の話をしっかりするのは初めてだったのですが、意外ときちんと議論が出来たことで自信にもなりました。来学期はAdvanced Syntaxというこれの発展版の授業を取る予定です。

・ LINGUIS 566 Advanced Semantics

これは言語の意味についての理論を学ぶ授業です。私の専門でないこと、Advancedであることから私にとっては一番つらい授業でした。毎回1つ論文を読んでいかなければならず、授業ではその論文の解説やディスカッションが行われるのですが、最後まで断片的にしか理解できませんでした。課題が学期を通して7つと最後にレポートが1つありましたが、この授業でも課

題を皆で協力して解くということがあり、そこで大いに理解を深められました。最後のレポートは 15 ページ以上の論文形式のものを書かなくてはならなかったのですが、ここでも先生に事前に相談に行き、自分のアイデアをまとめるのを手伝って頂きました。そのおかげもあり、レポートは自分で納得できるものに仕上がりました。自分の修士論文に使いそうな収穫もありましたので、辛い思いをただけ有意義なものでした。来学期は、順番が逆になってしまいますが Introduction to Semantics と、同じ先生の Independent study というマンツーマンで研究を進めるといふ授業を取る予定です。

- LINGUIS 708 Proseminar in Linguistics

この授業は言語学一般の知識を学ぶとともに、それを使いマイナー言語の文法などについて調べるといふものです。私の場合は台湾で話されているパイワン語という言語に取り組みました。学期を通してプレゼンが 5 つと、最後にプレゼンをまとめた 15~20 ページほどのレポートがありました。プレゼンは初めはかなり緊張しましたが、数を重ねるごとに慣れていき、段々と自信を持って話せるようになりました。それでもアメリカ人学生のプレゼンテーションの上手さには遠く及びませんが、11 月分の報告書にも書いたように、プレゼンの後の質疑応答やディスカッションで他の学生から反応があるのが嬉しく、印象的でした。700 番台という大学院生向けの授業だからか自由度が高く、最も日本の授業に近かったと感じました。ちなみに、学部生でも先生に許可を得れば大学院生の授業を取れるそうです。

- LINGUIS 450 General Phonetics and Practicum

この授業では、世界中の言語に使われる様々な音がどのようなメカニズムで発音されるのかといった事柄を扱いました。例えば、アフリカの諸言語ではクリックと呼ばれる舌打ちのような音を言語に使いますが、その際の気流の流れなどを学びました。この授業は小テストが 6 つほどに課題が 4 つ、テストが 2 つ、そして学期を通して進めるプロジェクトとそのレポートが 1 つというとても忙しい授業でした。11 月分でも紹介したように、プロジェクトではウィスコンシン州の英語のアクセントについて調べました。レコーディングをしてそれを分析し、グラフなどに数字をまとめるのですが、これがかなり手のかかる作業で 2 日連続で徹夜をした程でした。かなり辛かったですが、1 つの授業の課題にこれほどエネルギーを注ぐという事は日本ではあまりないと思いますので、これも良い経験だったと思えます。

- 全体を通して

全体としては少し授業を取りすぎてしまったと思いました。VISA の規定では大学院生は最低 9 単位は取らなければならないのですが、私は 12 単位取っていました。少し忙しく自分が何をしているのかいまいち分からなくなるという事もしばしばありましたので、来学期はもう少し余裕を持って履修したいと思えます。とはいえ、バランスよく専門の言語学の授業を取れたことでアメリカの大学というものを理解でき、専門に対する理解も深まりました。なにより、いろいろ

な勉強、経験、人との関りを経て視野が広がったことはとても良かったと思います。冬休みは今学期に学習したことを基に自分の研究を進めようと思います。次回のレポートで何を書くかはまだ未定ですが、冬休み中の学習や、来学期の履修について書ければと思います。

2. 生活の状況

毎回ここは天気の話から始めていますが、ミルウォーキーは寒くなる一方です。しかし、不思議と寒さにも慣れてきて、-5度くらいではそれほど寒くも感じなくなっていました。

12月は基本的に試験やレポートで図書館にこもりっきりでしたので特にどこかに出かけたりは出来ていませんが、12月半ばのテスト・レポート期間は図書館や寮などの至る所でコーヒーやホットチョコレート、お菓子やピザを無料で配布していたのが驚きでした。日本でも広く知られていることとは思いますが、アメリカの寄付の文化にはたびたび驚かされます。なにより、遅くまで図書館にいる際は本当に助かりました。こちらに到着してから来て4か月以上が経ち、アメリカの良い所も悪い所も増えてきた頃ですが、こうした助け合いや施しのような文化は私が最も好きなものかもしれません。

そして12月と言えばクリスマスと年越しですが、私はどちらについても特に何もしませんでした。ほとんどの学生は実家に帰り寮には誰もいなくなるのですが、私は寮に残った日本人やアメリカ人の学生とクリスマスにシカゴやミルウォーキー市内で少し買い物をしました。ミルウォーキーから車で1.5時間ほど行くとMitsuwaという日本食のスーパーがあるのですが、そこに行きました。Mitsuwaでは日本の食材を買ったり併設されているフードコートで食事を取ったりできますので、行く際はいつもとても楽しみです。他の日本人も含めた留学生はニューヨークやフロリダでクリスマスや年越しを過ごす人が多いように感じました。また、家族がこちらに来て一緒に過ごすという人もいました。

写真はMitsuwaのフードコートで食べた天丼とそばのセットと、カレーうどんです。どちらも日本で食べるのと遜色ないほどにとっても美味しかったです。ちなみに天丼のセットに付いている白米は手違いで付いてきてしまったものなので通常は付いていません。



年越しは、寮の部屋でアメリカ人数人とタイムズスクエアの中継などを見て過ごしました。NYの中継はおそらく日本ですと紅白歌合戦のような感覚でしょうか。NYとミルウォーキーは時差が一時間ありNYの方が1時間早く年が明けるのですが、NYが明けるとミルウォーキーにいるアメリカ人も盛り上がっていました。アメリカが明けたからめでたいという感覚なのかどうかは分かりませんが、国内で時差がある国の年明けは新鮮で面白かったです。ちなみにその後でミルウォーキーの年明けも祝っていました。

今月は生活について書くことがあまりなく少し寂しいですが、来月はアリゾナ州のフェニックスとグランドキャニオンに旅行に行く予定ですのでその様子をお伝えできればと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/1/1 ～2019/1/31)

1. 勉学の状況

1月は22日まで冬休みだったことに加え、雪と寒さの影響で第一週はほとんど休校だったため、授業はまだほとんど受けられていません。今回の報告書では私が前学期の授業を受けて、どのように今学期の授業を組んだかを少し書きたいと思います。前回の報告書にもそれぞれの授業の振り返りと次の学期での予定を書きましたが、基本的には前学期の続きの勉強をしていく予定です。今学期のスケジュールは以下の通りです。

	月	火	水	木	金	土
12:30~13:45						
14:00~15:15	LINGUIS 466 Advanced Syntax		LINGUIS 466 Advanced Syntax			
15:30~16:45	LINGUIS 564 Semantics		LINGUIS 564 Semantics			

Advanced Syntaxは言語の文法についての授業で、Semanticsは言語の意味についての授業です。この他にはLINGUIS 999 Independent Studyという授業を取っており、それは研究計画書に基づいた自分の研究を担当の先生と一緒に進めていくというものです。また、Semanticsの授業では勉強会が週に一回開かれる予定です。

見てわかるように、授業の数としてはかなり少なく余裕を持ったスケジュールになっています。実際は予習復習や課題で見た目より忙しくなるとは思いますが、今学期は自分の修士論文により直接的に関係するような勉強ができるように授業を組みました。

9月の報告書や12月の報告書でも断片的に書いていますが、私は言語を通して人間の知性/思考を明らかにする研究をしています。人間は、単語のみを持つとされる他の霊長類などと違い“単語を組み合わせて文を作る”ことができます。これが人間の複雑な思考を可能にしているとされるのですが、その組み合わせのメカニズムはどのようなものかというのが私の研究です。正しい組み合わせには、意味としてOKなことと文法としてOKなことが必要ですので、私の研究は人間の言語の意味と文法になります。留学前は機会がなかったため意味の研究はあまりしておらず文法の研究に集中していたのですが、ここUWMには意味論の先生が在籍していたこともあり、どちらかというと意味論をメインに勉強しています。日本でずっと勉強したいと思っていた分野ですので、こちらでそれが叶ってとても嬉しく思っています。

授業に関しては、前述した休校の影響でまだ一回しか受けられていません。しかし、前の学期の

続きですので先生も学生もほとんど知った人たちが安心して授業に取り組めそうです。

来月の報告書では、授業の様子と今学期から新しくとる Independent Study の授業について書きたいと思います。

2. 生活の状況

1月後半からは最低気温が-10度を下回ることが増え、いよいよ本格的に冬がやってきたという感じがします。日本でもニュースになっていると聞きましたが、ここミルウォーキーを含む中西部は記録的な寒さに見舞われて、学校が一週間で三日も休校になりました。こちらに10年勤めている人でもこんなことは初めてとのことでした。特に1月29日は最高-22度、最低-29度という寒さでした。マイナス22度とマイナス29度です。同じ日の南極の気温が最高-24度、最低-30度とミルウォーキーとそう変わらないことも話題になっていました。学校からも凍傷になるため4分以上外に出ないようにと注意があったほどです。実際、外に出ると肌が痛くなり少し身の危険を感じるほどでした。しかし、こちらに長く住んでいても滅多に体験できることではないため、貴重な体験だったと思います。

さて、時間が前後しますが冬休み中の1月中旬にはアリゾナ州のフェニックスとグランドキャニオンに行き来しました。フェニックスはミルウォーキーと違い基本的に20度以上と暖かくまさにバカンスという気分でした。グランドキャニオンは標高が高いためミルウォーキーと同じくらいの気温でしたが、本当に壮大で感動しました。日本から行くとなるとお金も時間もかかりますので留学中に行けて本当に良かったと思います。添付してある写真は、グランドキャニオンの一部のアンテロープキャニオンですが、本当に神秘的でまるで別世界にいるようでした。

また、旅行中は日本でもニュースなどで取り上げられている通りアメリカ全土が government shutdown という政府機関があまり機能していない状態にありましたが、その影響を感じることもできました。というのも、グランドキャニオンを含む国立公園などは通常入場料がかかりますが、どこのゲートも料金を徴収する人がおらず無料で入ることができました。ラッキーと言えばラッキーですが、手放しで喜べるような状態ではないので、これも貴重な経験をしたと言うに留めたいと思います。ついでに、少しセンシティブな話題ですがドナルド・トランプについて書きたいと思います。私の周りでは彼は完全に悪者といった扱いで、テレビ番組や新聞の漫画などでもかなり滑稽に扱われています。少し驚いたのは、ドナルド・トランプという名前も口にしたくないという人がいて、その人たちが彼を45代目大統領の意味で45と数字で呼ぶことです。特に彼を支持しているわけではありませんが、少し可哀そうに思うことも少なくありません。中間選挙の時にも感じたことですが、アメリカでは政治の話題が日本よりも身近で、どこかスポーツや芸能ニュースに似た感じすらあります。それには良い面もあると思いますが、もう少し一人の人としてリスペクトを受けても良いのではないかと思うのは私だけでしょうか。せめて数字ではなく名前か役職で呼んであげて欲しいものです。

2月はアニメミルウォーキーというイベントがありますのでその様子を報告したいと思います。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/2/1 ～2019/2/28)

1. 勉学の状況

先月は寒波の影響で学校がほとんどなかったですが、2月に入り無事に授業が始まりました。今学期の授業については先月分の報告書でも詳しく書きましたが、通常の教室で行われる授業が2つと、Independent Study という2週に1回ほど先生と面談をしながら自分の研究を進めていく授業の合計3つを履修しています。通常の2つの授業でも自分の専門に近い勉強できており充実した日々を送っていますが、今回の報告書では予告通り Independent Study の方について書きたいと思います。

Independent Study では、まず履修をする前に研究計画書を提出し、その後先生と話をして研究の進め方など詳細を決めます。その後は研究計画に沿って授業を進めていきます。研究の進め方ですが、事前に私、もしくは先生が指定した文献を読み、それについてディスカッションをするという形式で進んでいきます。最終的にはレポートを提出しなければいけないのですが、私の場合はディスカッションの内容を受けてこまめに小さなレポートを書く予定です。今のところ、3回アポイントメントを終えています。回を重ねるごとに充実したディスカッションをすることが出来ていると感じています。初めのアポイントメントは、11月の報告書にも書いたようにこちらでも先生と研究の話をしているので、それほど気負うことなく臨みました。しかし、前学期の授業と違い、今回は要求される内容が高いこともあり、あまり上手くいきませんでした。話題が何についての研究を進めていくのかという話で、オープンだったこともありますが、とっさに日本語や日本語の研究について説明を求められるとしどろもどろになってしまうということが何回か起こりました。日本であれば自分がうろ覚えであったり不正確であっても、先生がカバーしてくれたり訂正してくれますが、相手が日本語の研究について知らない場合は実に多くのことを説明しながら話を進めなくてはならないことに改めて気づかされました。2回目以降は事前に論文を読みそれについてディスカッションを行うという形ですので、初回ほどは困りませんでした。困らないどころか、日本で話を聞いてもらっていた先生たちとは全く異なる研究の背景を持った先生ですので、コメントや質問に対する答えも目新しいことが多く非常に有意義な時間でした。また、単純に1時間の間それなりのテンポでディスカッションをやり切れたことは自信になりました。2週間に1つ文献を読み、それについてのディスカッションの内容を考えるのは大変ですが、今まで取った授業の中では一番やりがいを感じています。

最後に、いまは中間試験の期間ですが、私が取っている授業はどれも期末レポートのみですので試験はありません。前の学期に比べると全体的に授業のストレスが少なく、予定通り自分の勉強に集中できています。来月の報告書では Independent Study の様子に加えて他の授業の様子も書きたいと思います。

2. 生活の状況

ミルウォーキーは相変わらず寒い日が続いていますが、体もだいぶ慣れてきました。以前の報告書ではマイナス 5 度くらいであればそれほど寒く感じなくなったと書きましたが、最近ではマイナス 10 度ほどであれば今日は寒いと思う程で、以前のように震えて喋ることもできないということはなくなりました。3 月以降は暖かくなっていくと信じていますので、残り少ない寒い日々を楽しんでいきたいと思います。

さて、何と言っても 2 月はミルウォーキーに日本のバンドの ONE OK ROCK がやって来ました。日本人留学生の間では待ちに待ったライブです。私は普段あまり彼らの音楽は聞かないのですが、日本と違い小さい会場で見れるということもあり観に行くことにしました。彼らがいま行っているワールドツアーの日本公演は東京ドームだそうですが、ミルウォーキーではおそらく 200~300 人程の前で演奏しておりとても近くで見ることが出来ました。観客は主にアジア系の若者でしたが、中にはアメリカ人もいて少し感動しました。また、なにより日本で売られているバンドがアメリカの小さいライブハウスで全力で演奏している姿に心を打たれました。とりあえず観ておこうというミーハーな気持ちで行ったライブでしたが、思いがけず自分も頑張ろうという気持ちにさせられました。余談ですが、ワンオクロックはアメリカではワンオーケーロックと呼ばれています。

また、アニメミルウォーキーというイベントにボランティアとして参加してきました。このイベントは基本的に皆がコスプレをして集まり、会場では日本やアニメの関連グッズが売っているというものです。また、中にはサブカルチャー以外の日本文化の紹介も行われていました。私が行ったボランティアは、日本の習字文化の紹介の最後に来場した人たちにカタカナで名前を書いてあげるというものです。どれだけ喜んでもらっていたかは分かりませんが、貴重な体験だったと思います。私はアニメはドラえもんなどのゴールデンタイムにやっているもの以外はほとんど見ないので、皆が誰のコスプレをしているのかはほとんど分からなかったのですが、それでもアメリカのアニメ熱に驚かされました。日本でコスプレを見る機会はほとんどないので比較のしようがないのですが少なくとも日本と同じか、もしかしたらそれ以上に気合が入っていたと思います。会場はミルウォーキーのダウンタウンにあったのですが、周りにコスプレをしたアメリカ人がうろろろしているという新鮮な光景をみることもできました。

2 月は比較的日本を感じて生活をしたように思います。もう半年アメリカにいますのでそろそろ日本が恋しくなってきましたが、残り少ない留学生活を楽しみたいと思います。3 月は 1 週間の春休みがありますので、その様子を書ければと思います。まだ、特に予定はありませんので課題をやって過ごすことになりそうですが。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/3/1 ～2019/3/31)

1. 勉学の状況

先月分の報告書では Independent Study を中心に授業の様子をお伝えしましたが、今月分では他の授業にも焦点を当てて書いていきたいと思えます。

1 月分の報告書などで繰り返し言っている通り、私は Advanced Syntax(統語論、文法), Semantics(意味論), Independent Study の 3 つの授業を取っています。授業の内容に関しては、どれも私の専門に直接関わってくることですので非常に楽しく有意義です。

Syntax の授業では人間の言語全てに共通するような規則を扱い、比較的最近の大きな研究をしています。基本的には英語の研究を他の言語に当てはめていくというタイプの研究/論文を扱うのですが、授業には英語、アラビア語(モロッコ、サウジアラビア)、ペルシャ語、日本語の母語話者とドイツ語、イタリア語、中国語などの学習者がおり、その論文内で扱われている言語に加え、他の言語でも同じことが言えるかなどを確かめながら授業が進みます。そのデータを整理しながら、先生がどのようなことが考えられるかなどを述べることも多いです。言語学の授業ではこういったスタイルはよくあり、私も千葉大学で中国語、モンゴル語、日本語の母語話者がデータを出し合って先生と学生と一緒に分析を考えるという授業を受けていたことがあります。しかし、アメリカにはやはり様々なバックグラウンドを持った人がいるため、扱える言語の数が多く、興味深いことが多くあります。

次に Semantics の授業ですが、この授業は Syntax とは対照的に“英語の”意味論を扱います。意味というのは母語話者でないとなかなか分かりにくく、日本で一人で勉強しようとしてもなかなか理解が進まないという事がありました。しかし、ここでは先生も含めて英語の母語話者がたくさんいますので、とても納得しながら授業を聞くことが出来ています。少し私が面白いと思った例を紹介したいと思います。まず、エレベーターに乗る際の注意書きに Dogs must be carried“犬を持ってください”と書かれていた場合、2 つの解釈ができるというものです。1 つは“犬を連れてくる人は犬を持ってエレベーターに乗ってください”というもので、もう一つは“犬を持っていないとこのエレベーターには乗れません”というものです。この 2 つの解釈それ自体だけでなく、なぜ 2 つの解釈が可能か、また何が違うのかということが面白かったです。

最後に、今はどの授業も期末レポートで何を書くかを決める時期ですのでそのテーマを考えています。Independent Study でそこそこ大きなレポートを書きますので、他の授業でもそれに関連したテーマや、書ききれなかったことを書く予定です。ちなみに、Independent Study では省略という現象について書く予定です。例えば、“太郎が自分の車を洗った。次郎も(省略)洗った”と言った場合は省略されている“自分の車を”が太郎の車とも次郎の車とも解釈されるという現象です。

今回の報告書では、よりレポートに焦点を当てて書きたいと思います。

2. 生活の状況

今までは“寒くなってきました”や“寒さに慣れました”と書き続けていましたが、嬉しいことに3月に入るとミルウォーキーもだんだんと暖かくなってきました。雪もほとんど解けて歩きやすくなりました。また、なによりサマータイムに移行したことで日が長くなりました。今までは朝7時頃に日が昇って夕方5時には真っ暗という感じだったのですが、今はこれを書いている午後7時でも薄暗いくらいです。こちらに来てから感じたことの1つが日の長さはだいぶ気分に影響するということです。日が短いと1日が早く終わってしまう気がしてとても気分が落ち込んでいましたが、日が長いと気分も明るくなります。友人によると太陽を浴びている時間が関係しているらしいのですが、本当はどうなのでしょう。

さて、3月は1週間ほどの春休みがありました。私はシカゴに遊びに行った以外は宿題などをやって過ごしたのですが、そのシカゴでの様子を少し書きたいと思います。シカゴに遊びに行くのはこれで4回目ほどで、加えて私は留学のプログラムが始まる前の2週間はシカゴの語学学校に通っていましたので、特に目新しいことはないと思っていました。しかし、さすがシカゴは大都会で今回もとても楽しく過ごすことが出来ました。行ったところは、中華街、ブルースのライブハウス、ラーメン屋くらいのものですが、普段学校やその近辺に留まっているぶん、外の世界が楽しかったです。特に、ラーメンがやはりおいしかったです。Misoya というラーメン屋で味噌ラーメンを食べたのですが、このラーメンは日本の他のラーメンと比べてもかなり美味しいと思います。前にも行ったことがあり、もしかしたら報告書にも書いたかもしれませんが、改めて感動しました。このように、本格的なラーメンなど、シカゴでは各国の本格的な料理を食べることが出来ます。中華街でも本格的な中華料理を食べました。中でも魚のお粥がとても美味しかったです。普段はアメリカンフードを買って食べるか、パスタなどを自炊をしているため、美味しい日本食や中華にはとても感動します。

私はシカゴに行っただけですが、他にはフロリダやニューヨーク、カリフォルニアに行った人がいました。交換留学生の中では家族が日本から遊びに来て一緒に旅行をしている人もいました。また、先生の1人は奥さんとカリフォルニアに行ったそうです。子供の幼稚園の休みと合わないから家族旅行に行けないのが残念だと言っていました。子供に幼稚園を休ませる選択肢はないのかなと少し気になります。ちなみにこの先生は、このあいだの授業に子供を連れてきていました。幼稚園が休園になってしまい家に誰も世話をする人がいなかったそうです。子供は教壇の下に隠されて静かにゲームをしていましたが、時々ゲームのことでパパである先生に助けを求めて出てきていました。普段は真面目で難しい話ばかりしている先生がパパの顔になっているのはなんだかとても面白く感じました。また、子供を授業に連れてくるというのは何となくアメリカっぽい気もしました。もちろんアメリカでもレアケースだとは思いますが。

留学生活も残りわずかになってきましたので、これからも体調に気を付けて1日1日を大切にしていきたいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/4/1 ～2019/4/30)

1. 勉学の状況

5月の半ばにレポートが締め切りですので、今はまさにレポートに取り組んでいる最中です。先学期はグループでのレポートがありましたが、今学期は全て1人で書かなければならないので気楽ではありますが、少し寂しい感じもしています。今月分の報告書ではレポートの進め方について書こうと思います。

レポートのトピックとしては、授業で習った言語学の理論を日本語に応用するといったものを中心に書く予定です。その際に、資料として日本語の本や論文が必要になるのですが、それらがアメリカでも思っていたより簡単に手に入ったことに感動しました。もちろんインターネット上にPDFで公開されているものや図書館に置いてあるものもありますが、それが見つからない場合は大学の図書館を通してリクエストを送るとUW-Madisonなどの系列校から取り寄せてもらえます。また、雑誌や本の中の特定の論文のみが欲しい場合はPDF形式でメールにて送ってもらうことも可能です。このサービス自体は日本の大学の図書館にもありますが、私が経験した限り送料などの費用を払わなくてはなりません。日本の大学でも同じ大学の別のキャンパスからの取り寄せであれば無料かもしれませんが、ここUWMではすべて無料でこれらのサービスが受けられたので、この点では恵まれていると感じました。また他にも、UWMの学生であればログインできる電子書籍のウェブサイトも便利によく使っています。そのサイトでは本の閲覧は無制限にでき、数百ページまでならダウンロードもできます。ですので、図書館やインターネットで手に入らない文献は電子書籍と図書館へのリクエストの2つの方法で探すことが出来ます。この他にも先生にこの論文が読みたいと言えばメールで送ってもらえる場合もあります。また、アメリカの学生はレポートを書くにあたって先生に事前に相談に行く人が多いように思います。自分のトピックや書こうと思っていることが授業内容と照らし合わせて問題ないかななどを相談したり、自分で決めたトピックをどう広げるかを相談したりしているようです。ある授業では授業時間一回分を学生からの相談に当てているほどです。このように、インターネット、図書館、先生などの様々なリソースを活かして最後のレポートに臨みたいと思います。

2. 生活の状況

もう4月に入り、最高気温が20度を超える日も多くなっていきました。また、帰国の日も近づいてきましたので色々と帰国前後の予定を強く意識し始めました。

留学の目的/理由の一つとしてアメリカの大学院に進学するために先生たちと実際に会うということがあったのですが、それもここに来て現実味を帯びてきました。本当は冬に行こうと計画

していたのですが、学期末の忙しさで手一杯になってしまい、事前にアポを取ったりすることができずに帰国前まで後回しにしてしまいました。今の段階で5人ほどにメールを送りましたが、反応は様々です。大学の教授というのは忙しいので、もちろん返事がない場合もあります。また、返ってきてその期間は大学にいないから会えないと言われてたり、大学にいてもスカイプで話そうと言ってくれる場合もありました。もちろん快く会ってくれる人もいました。日本にいると遠い存在で、論文でしか見ないような人たちとメールをするのは緊張しますが、楽しくもあります。実際に会えるとなると、なおのこと嬉しいです。

また、日本が4月末から10連休ということで友達が日本から遊びに来てくれました。住んでいるとなかなかミルウォーキーを観光しようとは思わないのですが、友達が来たという事で久しぶりに少し街を観光しました。普段はダウンタウンに行くとしても決まったところしか行かないのですが、今回観光してみてミルウォーキーはやはり良い所だなと思いました。その友達も言っていたのですが、アメリカというよりヨーロッパのような街並みで夜などはやはり綺麗でした。

残された日にちも少ないですのでミルウォーキーも心行くまで楽しんでから帰りたいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/5/1 ～2019/5/31)

1. 勉学の状況

5月の半ばで学期が終わり、私の留学生活も終わりとなりました。留学全てを通しての感想は別途、帰国報告書としてまとめる予定ですので、この報告書では5月中の勉学の状況を今学期のまとめをしながら書きたいと思います。

先月分でも書いたように、5月中は主に期末レポートに取り組んでいました。今学期のレポート全般の印象としては、先学期と比べると自分の研究内容に直接関係する事柄について書く予定でしたので気合を入れて書こうと思っていたのですが、少し気分が落ち込んでしまったのもあり尻すぼみのような感じで終わってしまいました。留学が終わるという事が関係しているのかわかりませんが、やはり自分で納得のいくレポートを提出して終わりたかったという後悔が少し残っています。しかし、学期を通して勉強自体はある程度頑張りましたのでまた帰国後に書く修士論文で納得のいく形で表現できればと思います。

レポートを提出する前に、自分のプロジェクトについての発表があったのですが、そこで他の学生の取り組み方について気付いたことがありますので少し書きたいと思います。私はなるべく授業の内容に沿った形でレポートを書こうとしたのですが、他の学生は自分の書きたいことをとにかく書くという取り組み方をしているという印象を受けました。例えば、私が取った Advanced Syntax という、言語の文法理論に関する授業のレポートでは、ある学生が言語の歴史的な変化について書いていました。もちろん関連性が全くないわけではないのですが、私からすると「そんなのアリなのか」という印象を受けました。もっと印象的だったのが、先生がその発表を聞いて授業の内容に沿った言い方でその学生のプレゼンの内容を言い換えて発展させたことでした。上述の通り僕は授業の内容にいわば縛られてレポートを書こうとして、結果としてうまくいかなかったもので、この一連の出来事で目が覚めた気分でした。というのは、もっと我が道を行くスタイルでレポートを進めて先生に頼れば良かったと思いました。少し気合が入りすぎて思い詰めてしまったのかもしれませんが。

また、最後の授業では、先生が「来てくれてありがとう」と温かい言葉で別れの挨拶をしてくれたことが印象的でした。「何かあれば研究の相談にもものるから遠慮なく連絡してください」とも言って頂き、ここで出来た先生との繋がりは途切れさせないようにしたいと思いました。交換留学で1年間しか在籍しない学生に対して、忙しいなか他の学生と同じように面倒を見て頂いたことは本当にありがたいことです。先学期に引き続き、今学期も課題や反省点は多く残りましたが、多くのことを学ぶことが出来ました。

2. 生活の状況

私にとっての5月の最大のイベントは、先月分の報告書で書いた、アポイントメントを取った先生と実際に会ってきたことです。結局、話が伺えることになったのは3人でその内1人はスカイプでのアポイントメントですので、実際に行ったのはミシガン大学とコネチカット大学の2校です。この報告書ではそのアポイントメントについて書きたいと思います。

まずミシガン大学の先生ですが、この先生はメールでやり取りをしている段階からとても良くしてくれたのが印象的でした。その先生のオフィスまでの道順を丁寧に教えてくれたり、いま在籍している日本人の学生を紹介してくれたりと至れり尽くせりな対応でした。ミシガン大学というのは言語学の研究においては有名な大学で、その先生もかなり有名な方ですので忙しいはずなのですが、それにも関わらずどこの馬の骨かも分からない私に丁寧に対応して頂けたのは本当にありがたいことです。直接会ってみてもその印象は変わりませんでした。私が研究室に入った時にその先生はグラノーラバーのようなものを食べていたのですが、「ランチがまだなら君にもあげるよ」と自分の食べていたバーを僕に差し出してきました。もちろんそれは冗談で、私も断りましたが、気の良いおじさんという感じで緊張が少しほぐれました。アポイントメント自体は30分ほどで、主に研究の話をしたのですが、私の下手な説明を受けて「面白い、確かにそれは考えるべきトピックだね」と言ってくれました。また、その先生がいまちょうど私の研究内容と非常に似たことをやっているとのことで、まだ公にはなっていないマニユスクリプトを頂くことも出来ました。その後は紹介して頂いた日本人の学生の方と会ってお茶やご飯をしながら話したのですが、本当に楽しく有意義な時間を過ごすことが出来ました。

次にコネチカット大学の先生ですが、この先生はメールがあまり返ってこずアポイントメントの時間も16:35と指定されたので初めは相当忙しいのだろうという印象でした。ですので、あいさつ程度に少し話が出来れば良いと思っていたのですが、いざ直接会ってみるとかなり異なった印象を受けました。まず、私の研究についてかなり深くまで質問をされ、とても真剣に話を聞いてくれました。そして、私の研究内容が一通り伝わったところで、それに関連する研究などを本当にたくさん教えてくれました。また、ただ読むべき文献を教えてくれただけでなく、それぞれの文献の内容についてホワイトボードまで使って丁寧にかなりの熱量を持って説明してくれました。実は、この先生の講演を学部生の頃に当時通っていた大学で聞いたことがあったのですが、その時とそう変わらない熱量でした。後半は私の研究の話からは少し離れてその先生の研究内容に話が移りましたが、実に有意義で贅沢な時間でした。気づけば90分ほど経っており、個人授業を受けたような感じでした。さらに、その後はたまたまその日に学校に来ていたスロベニア人の学生を急遽紹介して頂き、その学生とも1時間ほど話をすることが出来ました。移動の疲れや緊張の中2時間以上も研究の話をするのは非常に疲れましたが、学校の雰囲気などもよくわかり心の底から行って良かったと思うことが出来ました。

私の場合は大学の先生ですが、留学先に会って話してみたい人、例えば企業の人など、がいれば積極的にアポイントメントを取ってみるのは良いかも知れません。いわゆる”人脈”というのはきっとどの世界でも役に立つはずですよ。